



学校教育目標

「一人一人の個性を伸ばし、
自ら学ぶ生徒の育成を図る」

1. 「自ら学ぶ生徒」(知)
自律的で思考力に富む人間
2. 「心豊かな生徒」(情)
心豊かな潤いのある人間
3. 「よく働く生徒」(意)
たくましく実践力のある人間
4. 「体を鍛える生徒」(体)
健康ではつらつとした人間

敷島中「学校通信」

< 第10号 >

令和2年1月30日

文責 中満 一幸



「敷島中ホームページ」へアクセス

敷中

歳時記 1月

令和最初の3学期が始まりました

挨拶がつくる「やさしい心」・「つよい心」



おくれればせながら、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。旧年中は、本校の教育活動に対しまして、ご理解とご支援をいただきましたことに、心よりお礼申し上げます。本年も生徒の思いに応えられるよう、一丸となって職務に邁進していく所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



例年より、暖冬の1月7日(火)、敷島中の3学期が始まりました。ピンと張り詰めた冬の空気は、全校生徒の静寂な雰囲気の後押しするような、学校の1年を納める3学期のスタートにふさわしい始業式となりました。

年頭に当たり、全校生徒に向け、次の話をしました。

- 3年生は、進路希望が確定し、その実現に向けて頑張る時です。卒業式まで学校に登校するのは44日。自分の目指す進路へ向け自信をもって進んでください。体調に十分気をつけて目標突破への努力を続けましょう。
- 2年生は、いよいよ本校のリーダーとして力をつける学期。来年度は最上級生になり、敷島中を背負って行かなくてはなりません。3学期はその準備期間だと考えてください。着実な学習・生活をするとともに、3年生として安心して卒業できる学校・環境を創ってください。
- 1年生は、敷島中の中堅学年として、頑張る行かなくてはなりません。4月には新入生150数名が入学します。後輩に慕われる先輩になれるよう、今以上思いやりの心を身につけましょう。

各学年代表生徒(1年:保延沙空さん、2年:三木優奈さん、3年:樋口未来さん)の3名からは、3学期に臨む力強い抱負が発表されました。生徒会代表として、新生徒会長として初めてのスピーチを行った小田切涼星くん。「敷島中の全生徒が生徒の手による、生徒の自治的活動が大切」とまず述べ、敷島中が目指すべき方向性や目標を次のように語ってくれました。それは、



◎先輩方がこれまで築いた伝統を引き継いでいく強い決意を持っていること。

そして、

◎全校生徒が「敷島中学校で良かった」と思える学校にすることであると。



このことを実現するには、「全校生徒のみなさんが生徒会に協力したいと思える信頼を得て、敷島中の『顔』になりたい」とその決意を述べていました。また、実践方法として、小田切君自身が「率先して行動したい」とも語っています。生徒会役員選挙において小田切君が公約に掲げたのは、敷島中学校を「あいさつ」のあふれる学校にすること。そのためには、自分自身が、まず、困っている人を進んで助け、一番に手をさし述べられる人になることも述べています。小田切君の「決して人任せにせず、自分が全校生徒の模範となれるよう努力したい」という強い決意を聴いて、とても頼もしく感じ、うれしくなりました。全校生徒のみなさん、是非、小田切くんの思いをみんなの力で実現させましょう。期待しています。先生方もともに頑張ります。

この小田切生徒会長の決意は、今、校内のあちらこちらで変化を生み出しています。全校生徒の「あいさつ」の内容が変化しています。朝、校門をくぐると、朝練習中の生徒のみなさんから、姿勢を正して「〇〇先生、おはようございます」と大きな声と笑顔で声かけをする生徒が日に日に増えています。中には、立ち止まって丁寧、そして笑顔の「おはようございます」という『挨拶の作法』のルーティンができる生徒も増えています。敷島中の成長をととても強く感じています。



あれから25年・・・思いを新たに



25年前の1995年（平成7年）1月17日午前5時46分、「阪神淡路大震災」が神戸から淡路島付近に発生しました。生徒のみなさんはまだ生まれていませんが、地震の恐ろしさは、東日本大震災の映像などで理解されていると思います。阪神淡路大震災は、6,434人の尊い生命が犠牲になりました。高架道路がなぎ倒された無残な姿が印象的でもあります。私は、阪神淡路大震災を体験した小学4年生（震災当時神戸市在住小2）の児童を教えたことがあります。倒壊した家の家財道具に挟まれ、1晩過ごしたことが2年経ってもストレスとして、フラッシュバックし、夜半の暗闇の中でよみがえることがあるようです。

いつ来るかわからない地震を恐れて神経質になっていても仕方ありません。しかし、地震などの災害が起きた時、落ち着いてしっかり考え、どうすることがよいのか正しく判断し、適切に行動して自分の命を自分で守れる生徒になってほしい、そういう力を普段の学校や家庭での生活の中で身に付けてほしい。そう願っています。それから、自分がそういうことがちゃんとできる子どもであることを、お父さん・お母さんに理解してもらうことも大切です。そうすることが、お父さん・お母さんの命を守ることになるからです。



寒さを超える強い身体と意志を！ 令和2年最初の「鍛練」が実施されました

1月17日（金）、令和2年初めて、通算3回目の敷島中恒例行事『鍛練』が実施されました。完寒風吹く中、空は鉛色でしたが、生徒たちは、元気な笑顔とやる気に満ちあふれていました。病気や事故もなく、無事終えることができました。沿道にはたくさんの保護者の皆さまから温かい声援をいただいたことも、子どもたちの糧となっています。真剣な表情を崩さず黙々と自分のペースで走る生徒、友だちと励まし合いながら走る生徒、少し気持ちをリラックスさせて笑顔で言葉を交わしながら走る生徒など、走る様子は様々ですが、完走する充実感は何よりも得がたい経験となると考えます。このような、1つ1つ小さなステップかもしれませんが、「やりきる」、「貫徹する」という成功体験はやがて、何事にも臆せず取り組む自信を持つことができるだろうという期待感があります。また、このような行事が、教職員と保護者のみなさまの連携により安全にすすめられていることに唯々感謝しかありません。

まだまだ寒い中ですが、周囲をよく見回すと、黄色い花をほころばせた『黄梅（おうばい：モクセイ科半つる性落葉低木で正確には梅ではない）』（別名：蠟梅<ロウバイ：花びらが蠟細工のように黄色く透き通るロウ細工でできているように見える>）が咲いていました。花の少ない冬期に、そっと黄色い花を咲かせるロウバイのひかえめで奥ゆかしい姿は、生徒たちの活躍を祝福しているように微笑ましい感じます。令和2年度への生徒たちのステップアップと重ね合わせると、いまだからこそできる準備を着実に進めている敷島中の生徒たちとオーバーラップしてしまう存在だと思います。黄梅のように、目標に向かって突き進む「つよい心」と、仲間を大切にする「やさしい心」を兼ね備えた人に成長してほしいと感じました。



入試に臨む3年生に 【願い】をこめたお気持ちを いただきました。

1月10日、山梨県更生保護女性連盟敷島支部の皆様から『母の鈴』を頂戴しました。人生の重大な岐路に立つ3年生が、一呼吸おいて鈴の音色に心を澄ませ、決然と自分の道を歩んで欲しい思いを母の立場から応援したい思いがあるそうです。毎年届けてくださり、手間暇かかり、ほぼ1年間かけ、貝に装飾した鈴だそうです。3年生を代表して長田千暖くんに受け取っていただきました。3年生172名への熱いエールをいただきました。ありがとうございます。

